

### 3.4.1.2 2年次合同中間発表会について

担当：高橋 健太

実施時期：令和3年11月18日(木) 場所：多目的ホール  
令和4年1月27日(木) 大LL教室  
対象生徒：総合科学系2年次48名

#### 1. 研究開発の経緯と目的

本校では総合科学系2年次より取り組む課題研究の一環として、外部発表会への参加を行っている。ここではその中でも「合同中間発表会」として11月に兵庫県立尼崎小田高等学校、1月に大阪府立住吉高等学校の両校と開催したものについて記述する。

他の外部発表と違い生徒同士の交流がしやすく、生徒にとっては同じ目線で課題研究に取り組む者からの指摘、アドバイスを受けられることが大きなメリットであると考え。また発表においても聞き手と直接コミュニケーションを行うため、表現理解力の向上に大いに効果があると考え。

#### 2. 仮説

本事業により育むことができる力は「特別探究①」に準じ、以下の通りであるが、上記の通り特に表現理解力に効果があると考えられる。

	課題 設定力	企画 協働力	論理 考察力	自己 学習力	表現理解力		ICT 活用力
					発表	質問	
仮説	○	○	○	○	○	○	○

#### 3. 研究内容・方法

尼崎小田高校とは本校の多目的ホールにてポスターセッションを、住吉高校とはオンラインにてスライド発表会を実施した。具体的には以下の通り。

- ・尼崎小田高校とのポスターセッションでは両校の各班が3回ずつ発表できるようにローテーションを組み、短時間ではあったが発表や交流を充実させるように配慮した。また新型コロナウイルスの感染症対策として、ポスター間の距離を4m以上とり、視聴者と発表者の距離を2m以上取るようにして実施した。
- ・住吉高校とのスライド発表会では、短時間のオンライン発表会でも両校の全班が発表できるよう、オンライン会議のルーム機能を使用し、小集団に分割して発表を実施した。

#### 4. 検証

それぞれの発表会後においてもワークシートを用いて生徒が発表会を振り返る活動を行った。生徒にとっては良い刺激となり、その後の研究活動により前向きに取り組む姿が多くみられた。

反省点としては、特に11月の発表会については研究があまり進んでいない班が多く、生徒にとって開催時期がややシビアであったことが挙げられる。この発表会のためのポスター、スライド作成を早期に取り組む必要があったことはもちろん、新型コロナウイルス感染症の流行により学校行事等の日程が変更になったことも一因である。次年度以降も開催したい事業であるため、「特別探究①」のカリキュラム改善を行う必要がある。